

## 全生存期間に対する後治療の影響を 評価するための探索的解析

- 後治療の選択は割付治療の影響を直接・間接的に受けたものであるため、それを適切に調整できる方法を用いる必要がある
- Yamaguchi and Ohashi (2004)は後治療の影響を調整するために structural nested failure time (SNFT) modelを用いることを提案した

27

## SNFT model

- 幾つかの仮定が必要で、なおかつ、その仮定の妥当性の検証は困難
  - 例) Model structure, no unmeasured confounders
- 全種類の後治療を同時にモデル化する際に技術的な限界があった
  - 一度にたった1つの後治療の効果しかモデルに含めることができない
  - 最初の後治療しかモデルに含めることができず、また、その効果が死亡まで存続すると仮定する
  - 反対の治療法へクロス・オーバーした症例数が2群間でバランスしていたとした場合や、全ての後治療(ゲフィチニブ、ドセタキセル、その他)が2群間でバランスしていたとした場合の結果について評価できない
- 結果
  - 両群において最初の後治療がゲフィチニブでなかった(すなわち、ドセタキセル、他の化学療法、あるいは後治療なし)というように調整したモデル解析
    - ◆ この調整を行うと、ゲフィチニブ群の生存期間はドセタキセル群よりも短い傾向が見られた
  - 両群において最初の後治療がドセタキセルでなかった(すなわち、ゲフィチニブ、他の化学療法、あるいは後治療なし)というように調整したモデル解析
    - ◆ この調整を行うと、ゲフィチニブ群の生存期間はドセタキセル群よりも短い傾向が見られた

28